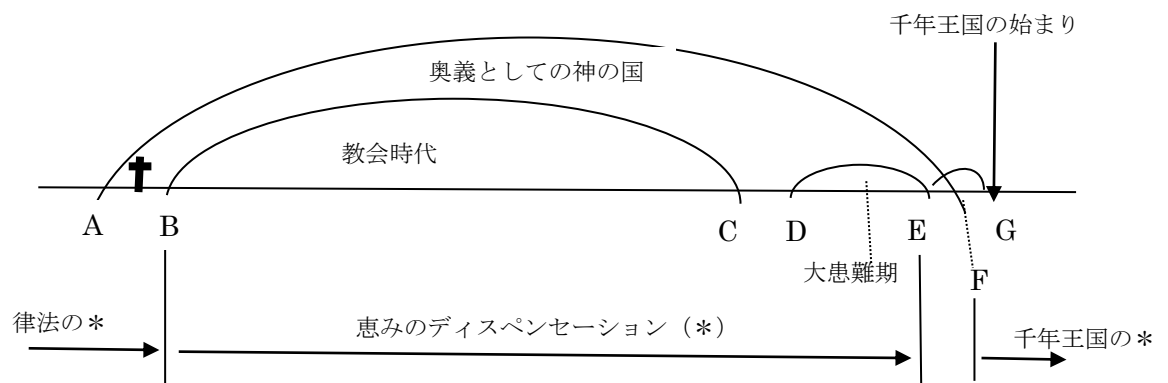


新約聖書の中の奥義 第 24 回 たとえ話による教え

□ 「奥義としての神の国」と神の国の 5 つの層（前回の内容）

- 「神の国」というとき、それは神の国の 5 つの層のうちのどれか、またはそのような複数の層を持つ神の国のプログラム全体を指す。
 - 全宇宙的な永遠の国
 - 霊的な国
 - 神政の国
 - メシアの王国（千年王国）
 - 奥義としての神の国
- 「奥義としての神の国」は、イスラエルの指導者層がイエスをメシアではないと拒否したとき（マタイ 12 章）【A】から始まり、諸国民の裁き（マタイ 25 章）【F】で終わる。この期間の中に、教会時代と大患難期が含まれる。



- 【A】 イスラエルの指導者層が、イエスをメシアではないと拒否した（マタイ 12 章）
- 【B】 聖霊のバプテスマが、紀元 30 年五旬節の日起きて、教会を誕生させた。教会時代がスタートした。
- 【C】 教会が携挙される。これをもって、教会時代が終了する。
教会の携挙とは、教会の信者たちの復活と変換、そして天への携挙である。教会の携挙のあと、地上は、大患難期 7 年間を迎える。
- 【D】 国家としてのイスラエルと、ある小国の君主（反キリスト）とが、同盟条約を締結する。これをもって、大患難期が始まる。
- 【E】 イスラエル民族の悔い改め・メシア受容・キリストの再臨、そして反キリストとその軍隊の壊滅。これをもって、大患難期は終了する。
- 【F】 諸国民の裁き。大患難期を生き残った諸国民（ユダヤ人を除く、異邦人）が、正しい者と悪い者とに区分され、正しい者は千年王国に入ることを認められる。これをもって、奥義としての神の国は終了する。
- 【G】 メシアの王国（千年王国）の始まり。【E】 から【G】までの期間は、75 日間

□「奥義としての神の国」の特徴を教える 9 つのたとえ話

マタイ 13 章、マルコ 4 章、ルカ 8 章に記される 9 つのたとえ話を学ぶ。

本日は、たとえ話の内容に入る前に、なぜイエスがたとえ話で教えたのか、を見る。

たとえ話による教え

マタイ 13 : 1~3 **その日**、イエスは家を出て、湖のほとりに座っておられた。すると大勢の群衆がみもとに集まったので、イエスは舟に乗って腰を下ろされた。群衆はみな岸辺に立っていた。イエスは彼らに、**多くのことをたとえて語られた。**

1. 「その日」(マタイ 13 : 1)

「その日」とは、イスラエルの指導者層がイエスをメシアではないと公式に拒否宣言をした日である(マタイ 12 章)。この日を境にして、イエスの宣教は大きく変わった。その変化には二つある。ひとつは「しるし(奇跡)」、もうひとつは「教え方」である。

(1) 「しるし(奇跡)」

マタイ 12 : 39 **しかし、イエスは答えられた。「悪い、姦淫の時代はしるしを求めますが、しるしは与えられません。ただし、預言者ヨナのしるしは別です。」**

- ① これまでに、イエスは、イスラエルの人々、特に指導者層に対して、ご自身がメシアであることを示すために、しるし(奇跡)を、何度も公然と行ってきた。そのとき、イエスは、病気の癒しなどを受ける人に、イエスに対する信仰を持っているかどうかは、問わなかった。
- ② この日を境に、イスラエルに対するしるしは、「ヨナのしるし」だけとなる。ヨナのしるしとは、よみがえり・復活である。この後、実際に、ベタニアのラザロのよみがえり(ヨハネ 11 章)、そしてイエスご自身の復活が起きた。ヨナのしるしとして、2 回、イスラエルの人々、特に指導者層に対して、与えられたのである。しかし、彼らはそれでも悔い改めることをせず、イエスを信じなかった。
- ③ ヨナのしるしは、もう 1 回、3 度目が起きるであろう。それは、大患難期の半ばにおける二人の証人の復活である(黙示録 11 : 11)。将来の、そのときの世代のイスラエルは、二人の証人の復活を見、それに続く大地震を体験して、天の神に向き直る(黙 11 : 13)。そして大患難期の末に、イエスをメシアとして認め、民族的な救いを受けることになる。

- ④ このように、イスラエルに対するしるしは、「ヨナのしるし」だけとなったが、イエスは弟子たちに対しては引き続き、ご自身の権威と力を示すために、しるし（奇跡）を行った。ただし、それは公然とではなく、人目のつかない場所で行った。その場合、病気の癒しなどを受ける人の側には、イエスを信じる信仰を持っていることが条件となった。さらに、癒された人には、イスラエルの人々に言わないように、と口止めまでするようになった。

(2) 「教え方」

マタイ 13:34 イエスは、これらのことをみな、たとえで群衆に話された。たとえを使わずには何も話されなかった。

マルコ 4:33 イエスは、このような多くのたとえをもって、彼らの聞く力に応じてみことばを話された。たとえを使わずに話されることはなかった。ただ、ご自分の弟子たちには、彼らだけがいるときに、すべてのことを解き明かされた。

- ① それまでは、イスラエルの人々にとって、イエスの教えは理解できるものであった。

ルカ 4:22 人々はイエスをほめ、その口から出てくる恵みのことばに驚いた。

マタイ 7:28~29 イエスがこれらのことばを語り終えられると、群衆はその教えに驚いた。イエスが彼らの律法学者たちによろしくではなく、権威ある者として教えられたからである。

・・・理解できたから、イエスの教えに驚いたのである。「律法学者たちのようにではなく」とは、名高い先輩学者たちの見解を引用しながら語るのではなく、ということ。律法学者たちは人の権威に基づいて語った。それに対して、イエスは、誰がこう教えたなどとは言わない。メシアとして、ご自身の権威において語ったのであった。イエスが権威をもって語っておられることに人々が驚いたということは、その教えの内容を人々が理解したからである。

・・・ルカ 4:22 では、イエスの教えの内容を、人々は「恵みのことば」として受け取った。律法学者たちの教えは、規則についてばかりであった。これに対し、イエスの教えは、いのち、喜び、平安、解放、自由である。ルカ 4:21 にはイエスがどのようなことを話したかは記録されていないが、「主の恵みの年」(18節)が来た、メシアが現れた、と人々が理解できる内容であったものであろう。

- ② この日を境に、イエスは群衆に対して、たとえ話だけで教えるようになった。わかったような、わからないような話である。そして、イエスは、弟子たちには、あとでその意味を教えた。イエスの解説が加わることで、弟子たちにとって、たとえ話は、霊的な真理を視覚的に理解させるイラストのような効果をもたらした。

2. 「多くのことをたとえて語られた」(マタイ 13:3)

- (1) イエスは、その日のうちに、**群衆に対して5つのたとえ話**を語った(マタイ 13:3～9、24～33、マルコ 4:3～9、26～32、ルカ 8:5～8)。一つ目のたとえ話と、あとの4つのたとえ話の間では、弟子たちがイエスに質問をした → (2)

① 種まき

② まかれた種は自ら育つ

③ 畑の毒麦

④ からし種

⑤ パン種



- (2) イエスが群衆に語り始めるとすぐ、弟子たちは、イエスの教え方が変わったことに気づいた。イエスが一つ目のたとえ話、「種まきのたとえ話」を語るとすぐ、弟子たちは、イエスのところにきて、なぜ、たとえてお話になるのですか、と尋ねた。(マタイ 13:10～23、マルコ 4:10～25、ルカ 8:9～18)

マタイ 13:10 **すると、弟子たちが近寄って来て、イエスに「なぜ、彼らにたとえてお話になるのですか」と言った。**

マルコ 4:10 **さて、イエスだけになったとき、イエスの周りにいた人たちが、十二人とともに、これらのたとえのことを尋ねた。**

イエスは、3つのことを答えた。

- ① たとえ話のテーマは、「奥義としての神の国」の時代的特徴である
- ② たとえて語る理由は、弟子たちだけに理解させるためである
- ③ 一つ目のたとえ話「種まき」の内容
- ④ これからイエスが語る一連のたとえ話を理解するために、とても重要なものである(マルコ 4:13)

- (3) そして、イエスは、再び群衆に向って、あとの4つのたとえ話を語った。
マタイ 13:34～35、イエスがたとえて群衆に語ったのは、旧約預言の成就

- (4) イエスは群衆を解散させて家に入った。そこでは、イエスと弟子たちだけになった。すると、弟子たちは、3番目のたとえ話「畑の毒麦」についてイエスに説明を求めた。イエスはそれを解説し、**さらに4つのたとえ話を弟子たちに**語った(マタイ 13:36～53)。

- (5) こうして、イエスは、**合わせて9つのたとえ話を、「その日」、イスラエルがイエスを拒否した日のうちに語った。**

□たとえ話のテーマと、たとえ話で語る目的

マタイ 13 : 11 あなたがたには**天の御国の奥義**を知ることが許されていますが、あの人たちには許されていません。

マルコ 4 : 11 あなたがたには**神の国の奥義**が与えられていますが、外の人たちには、すべてがたとえで語られるのです。

マルコ 4 : 33 イエスは、このような多くのたとえをもって、彼らの聞く力に応じてみことばを話された。たとえを使わずに話されることはなかった。ただ、**ご自分の弟子たちには、彼らだけがいるときに、すべてのことを解き明かされた。**

たとえ話のテーマは、**奥義としての神の国**である。

このテーマをたとえ話の形で語るのは、あたかもイラストで見せるかのような効果がある。もちろん、そのイラストが何を指しているのか、明確に知るためには、解説が必要である。**イエスは、群衆にはたとえ話で語り、弟子たちにはそれに解説を加えた。**

よって、たとえ話で語る目的の第一は、弟子たちには視覚的に理解させるためである。第二の目的は、メシアを拒否した邪悪な世代には、その情報を隠すためである。なぜなら、イエスをメシアとして信じる信仰を持っていることが、その情報を受け取る条件だからである。

□一連のたとえ話を理解する鍵は、一つ目のたとえ話「種まき」にある

マルコ 4 : 13 そして、彼ら（弟子たち）にこう言われた。「このたとえが分からないのですか。そんなことで、どうしてすべてのたとえが理解できるのでしょうか。」

一つ目のたとえ話を理解することが、二つ目以降のたとえ話を理解するために鍵となる。

次回は、一つ目のたとえ話「種まき」を学びます。